

島根県立  
古代出雲歴史博物館  
NEWS

2014.JUN vol. 31



CONTENTS

- 2・3 (特集) 企画展「倭の五王と出雲の豪族」
- 4 展覧会通信 特集展「板締の世界」／学芸員通信
- 5 れきはく通信 6 まいぶんセンター通信
- 7 古代セン通信 8 れきはくごよみ／お知らせ

ヤマト王権を支えた出雲の豪族たち

# 倭の五王と 出雲の豪族

平成26年7月25日(金) → 9月15日(月)



## 企画展

## 「倭の五王と出雲の豪族～ヤマト王権を支えた出雲～」

開催期間 2014年7月25日(金)～9月15日(月) 会期中の休館日 8月19日(火)

開催場所 古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間 9:00～18:00

主催 鳥根県立古代出雲歴史博物館、鳥根県古代文化センター

五世紀を中心とする古墳時代中期、「倭の五王」と称される倭国歴代の大王たちは、国家間の対立が激化する東アジア世界に対応すべく、国家形成への歩みをすすめていました。また、彼らは列島史上最大規模の前方後円墳を築造し、ヤマト王権の超絶的な権力基盤を内外の人々に誇示した巨大古墳の時代でもありました。

こうした時代の中で、出雲の豪族たちは一辺50mを超える巨大な方墳、洗練された技術を持つ最古級の人物埴輪を作るなど他地域の豪族とは異なる性格を持っています。最近の様々な調査研究から、その性格はヤマト王権に列する「直参」的なものであったのではないかとわれています。

本企画展は、倭の五王の時代を駆け抜けた出雲の豪族たちに焦点をあてた展覧会です。出雲の豪族たちが、大王を頂点とするヤマト王権をいかに支えたのか、そしてこの出雲という地域をいかに開発し、のちの律令時代につながる「出雲」という地域的なまとまりを形成する先駆けとなったのか、最新の調査研究成果から新たな出雲古代史像を解き明かします。

## 【プロローグ 古墳時代の到来と出雲】

3世紀中頃、前方後円墳を倭国の象徴とした初期ヤマト王権が成立します。しかし、出雲をはじめとする山陰各地では、弥生墳丘墓の伝統を継ぐ「方墳」が築造されます。ここでは、弥生墳丘墓からの伝統と革新を軸に、出雲の豪族たちが、ヤマト王権と新たな関係を結んだ古墳時代の始まりを紹介します。

## 【第1章 前方後円墳の登場】

古墳時代前期後半(4世紀後半)、大王墓の築造が大和盆地北部に移動します。ヤマト王権は日本海を介した対外交渉ルートを開発をすすめました。出雲に前方後円墳が築造されるのは、まさにこのタイミングです。ヤマト王権と山陰各地の豪族たちの活発な交流を、多様な副葬品から紹介します。

## 【第2章 倭の五王と出雲の豪族】

古墳時代中期(5世紀)になると、海外への直接的な窓口となる大阪湾を擁した百舌鳥・古市に大王墓が移動します。出雲では50mを超える巨大な方墳がつけられ、最古級の人物埴輪が導入されました。最新の調査研究から、ヤマト王権を支えた出雲の豪族たちを紹介します。

## 【第3章 淤宇宿禰(おうのすくね)の時代】

『日本書紀』に記された出雲臣の祖・「淤宇宿禰」とはいかなる人物でしょうか。近年の調査研究で明らかになった意宇平野に存在する居館遺跡の実態を中心に、地域の開発や手工業生産に参画した渡来人の足跡と、出雲臣の始祖的な豪族の存在が、5世紀にまで遡る可能性を紹介します。

## 【第4章 前方後方墳と「出雲」の形成】

古墳時代中期末(5世紀末)になると、出雲東部の豪族たちは「前方後方墳」の築造をはじめます。王権による地方支配の変革期である倭王「武」(雄略大王)の時代から、「前方後方墳」築造の謎と、律令時代につながる「出雲」という地域形成の始まりを解き明かします。

## 【エピローグ 東西出雲の成立】

古墳時代後期(6世紀)、「前方後方墳」を築造する出雲東部勢力に拮抗する勢力が現れます。この勢力は出雲西部に興り、前方後円墳や円墳を築造する勢力でした。「倭の五王の時代」には顕在化していなかった拮抗する東西出雲の成立を紹介します。



蓋形埴輪(複製)



仁徳天皇陵古墳



四条古墳鹿形埴輪



長瀬高浜遺跡出土品

# 倭の五王と出雲の豪族 – ヤマト王権を支えた出雲 –

古代出雲歴史博物館 主任学芸員 仁 木 聡

## はじめに

5世紀を中心とする古墳時代中期、「倭の五王」と称される倭国歴代の大王たちは、国家間の対立が激化する東アジア世界に対応すべく、国家形成への歩みをすすめていました。また、彼らは列島史上最大規模の前方後円墳を築造し、ヤマト王権の超絶的な権力基盤を内外の人々に誇示した巨大古墳の時代でもありました。

こうした時代の中で、出雲の豪族たちは一辺50mを超える巨大な方墳、洗練された技術を持つ最古級の人物埴輪をつくります。

このような考古学的な知見と、最新の古代史・考古学的方法論に基づいて進められた鳥根県古代文化センターの研究の一つの結論として、ヤマト王権における出雲の豪族のあり方は、「王権という政体に列した直属的な存在」であった可能性が高いのではないかと仮説が提示されました。本展は、こうした研究成果公表の一環として基づいて企画されたものです。

## 本展覧会のねらい

本展は、倭の五王の時代を駆け抜けた出雲の豪族たちに焦点をあてた展覧会です。出雲の豪族たちが、大王を頂点とするヤマト王権をいかに支えたのか、そしてこの出雲という地域をいかに開発し、のちの律令時代につながる「出雲」という地域的なまとまりを形成する先駆けとなったのか、最新の調査研究成果から新たな出雲古代史像を解き明かします。

「王権から遠い存在」と評価されてきた出雲のイメージに、一石を投じる刺激的な内容になっています。ご期待ください！



石屋古墳 埴輪 3点

## 企画展関連講座

### ■ 企画展関連講座①

平成26年7月26日(土) 13:30~15:00

「人物埴輪の登場と古墳祭祀」 講師：高橋克壽氏（花園大学文学部文化遺産学科教授）

### ■ 企画展関連講座②

平成26年8月23日(土) 13:30~15:00

「巨大方墳の被葬者像」 講師：仁木 聡（古代出雲歴史博物館 主任学芸員）

### ■ 企画展関連講座③

平成26年9月6日(土) 13:30~15:00

「倭国の外交と渡来人の活躍」 講師：田中史生氏（関東学院大学経済学部教授）

○場所：古代出雲歴史博物館 講義室 ○定員：各100名 ○無料

○申込方法：電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申し込みください。

## 企画展ギャラリー・トーク

### ■ 担当学芸員による展示解説

○日時：平成26年8月9日(土)、8月24日(日)、9月13日(土) 11:00~/14:00~ (1日2回)

○受付：企画展入口 ○事前申込みは不要です。企画展観覧料もしくはパスポートが必要です。

## 企画展関連イベント

### ■ ハニワを作ろう！ 当時の技法でミニチュアのハニワ作りにチャレンジ

解説&指導 一瀬和夫氏（京都橘大学文学部教授）

○日時：平成26年8月17日(日) 13:30~15:00

○場所：体験工房 ○定員20名 ○参加費無料（要申込） 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申し込みください

### ■ 古墳時代のヨロイとカブトを着てみよう！

○日時：平成26年8月17日(日) 10:00~16:00

○場所：講義室 ○参加費無料(申込不要) ○小学生以下限定

ただいま開催中の特集展の紹介です。

「板締の世界 – 出雲藍板締・京紅板締・中国藍夾纈 –」

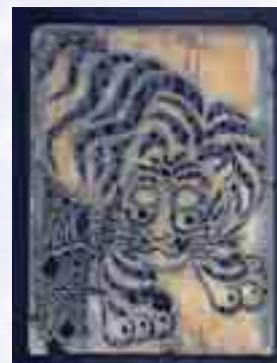
開催期間 2014年6月6日(金)～7月6日(日) 会期中の休館日 6月17日(火)

開催場所 古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間 9:00～18:00

主催 板締染織技術の相互交流事業実行委員会

後援 中華人民共和国駐大阪総領事館



出雲藍板締「竹と虎」

古代出雲歴史博物館には、現在では幻の染色技術となっている出雲藍板締や、京紅板締の版木など、一大コレクションが所蔵されています。これを6年振りに一挙公開するとともに、中華文化促進会 張琴氏が所蔵している19世紀半ば以後の中国藍夾纈資料を合わせて展示することによって、それぞれの板締技術の比較を行いながら、板締染が用いられた理由を考えます。

それとともに、版木に彫られた文様の楽しさ、文様の意味、中国とも共通する近世末頃の庶民の願いを感じることができます。なお、中国藍夾纈資料の一括展示は日本初の試みです。



京紅板締「流水に桜」



中国藍夾纈

会期も残り少なくなってきました、皆様ぜひお越しください。

[学芸員通信]

このたび当館の音声ガイドを更新しました。

平成19年の開館以来、音声ガイドは、多くのお客様にご利用いただきました。このたび、音声ガイドの機器を一新しましたのでお知らせいたします。

これまでの音声ガイドは両手で持つ大きさでしたが、新しい音声ガイドはApple社製のiPod touchを利用しています。iPod touchの利点は、①小型②軽量③動作がわかりやすい、ことが挙げられます

①と②は、機器の大きさがカバーを含めて縦13.5cmで横が6cm、厚さが1cmしかなく、重さはなんと120gです。首からかけられるヒモも付いていますが、片手で十分持てる重さとなっています。片手で持ち、もう一方で画面を操作するのに適した機器になったといえるでしょう。

③は、近年のスマートフォンの普及により定着してきましたが、指先で画面を押す「タップ」、画面をなでる「フリック」を用いて新機器は操作します。すでにご利用いただいた方の感想からは、「初めて操作したが難しくなかった」「操作がわかりやすい」などのご意見を頂戴しています。

機器は新しくなりましたが、音声ガイドの内容はこれまでどおりです。音声以外に写真や文章で展示品を紹介しています。日本語以外にも英語やハンゲルによる表記もあります。なお、これまでと同じく音声ガイドの利用料金はいただいておりません。

ぜひ、新しくなった当館の音声ガイドをご利用いただきたいと思います。



## 館長新任挨拶

古代出雲歴史博物館 館長 黒崎 寿政

私にとって好きな景色からお話したいと思います。

新緑の頃、出雲大社の勢溜まりから博物館の方へ少し歩き市道との交差点近くに来ますと、パーンとはじけるように空間が開け、弥山山系の濃淡のある新緑、風土記庭園の芝生や笹の緑、松並木の緑の中に古代出雲博物館が浮かび上がってきます。緑の中には民家も点在しています。混沌と配置される緑の絶妙な色彩と博物館や民家のバランスが絶妙です。私のおすすめポイントです。

私は事務職員ですが、不思議と歴史分野と縁があり、平成9年に東京、大阪、松江で開催された古代出雲文化展、平成19年の当館の開館などに関わり、続いて古代文化センター長として歴史文化の研究もさせていただきました。その後、学校教育の仕事を経て今回こちらでお世話になることになりました。光栄なことであります。

さて、ここ出雲を眺めてみますと、言うまでもありませんが悠久の歴史ロマンを感じずにはられません。皆様よくご存じですので個別には述べませんが他地域では考えられない有形無形・多種多様な歴史文化遺産がここ出雲には存在します。誇るべきことと思います。

冒頭のお話した私の好きなビューポイントに立ち、三千年前はどんな景色だったのだろうか、二千年前は？千年前は？百年前は？どんな人々がどんな表情をしてここを通り過ぎて行ったのだろうか？思いは悠久の時を超え羽ばたきます。

そんな思いを想起していただけるような博物館にしていけたらと考えています。

## 学芸部長新任挨拶

古代出雲歴史博物館 学芸部長 的野 克之

昭和57年、まったく知人のいない島根県に学芸員として就職しました。最初に勤めた島根県立博物館は、予算がないかわり若い学芸員には何でもやらせると言った雰囲気満ちた職場で、本来仏教美術をやるつもりで勤めたのですが、相当あてが外れました。

若い頃に担当した展覧会は、『仮面と神像展』、『西川津遺跡展』、『荒神谷遺跡出土青銅器速報展』、『現代美術の世界展』、『ピカソ展』、『京都市美術館所蔵日本画展』、『島根の秘仏展』、『懸仏展』など考古学から現代美術まで幅広く係わりました。

その後県庁に異動し、島根県益田市美術館とホール複合施設（グラントワ）の準備に係わりました。ここではそれまでの文化財を相手の仕事とはまったく異なり、設計図面とにらめっこの毎日。おつきあい先もお寺や神社の方々から、設計事務所や工事現場の方々に様変わりしました。建物の完成後は益田市で単身赴任も経験しました。

平成20年4月、現在の当館に異動しました。挨拶回りで多くの方から「おかえりなさい」と言っていただきました。まさに学芸員冥利につく経験でした。

昨年までは出雲大社本殿遷座祭など当館にとって追い風が吹いていましたが、いよいよ実力が試される時がやってきました。若い頃のように、何でもやってみたいと思いますのでどうかよろしく願います。

## 平成26年度の発掘調査 ～出雲市・大田市内の遺跡や重要古墳の発掘調査～

埋蔵文化財調査センターでは、毎年、高速道路建設や河川改修などの開発事業に先立って数多くの遺跡の発掘調査を実施しています。そのほかに、県内の重要な古墳の規模や詳しい内容を確認するための調査も行っています。

調査事業	遺跡名	所在地	年代	遺跡の内容	調査予定期間
一般国道9号出雲湖陵道路改築に伴う発掘調査	玉泉寺裏遺跡	出雲市東神西町	弥生時代～奈良時代	出雲平野南西部の丘陵地に位置する弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡	5月～8月
	九景川遺跡	出雲市東神西町	古墳時代～奈良時代	玉泉寺裏遺跡に隣接する古墳時代から奈良時代にかけての集落遺跡	10月～12月
	麓Ⅱ遺跡	出雲市東神西町	縄文時代～中世	神西城跡東麓に位置する平安時代から中世の集落遺跡で、下層は縄文時代の散布地	5月～7月
	坂本谷遺跡	出雲市西神西町	中世	神西城跡西麓に位置し、平坦面から中世の遺物が出土	10月～12月
一般国道9号朝山大田道路改築に伴う発掘調査	大西大師山遺跡	大田市久手町	古墳時代～奈良時代	旧波根湖南東の丘陵地に位置する古墳時代後期の横穴墓群	5月～12月
	中尾H遺跡	大田市久手町	縄文時代～近世	川跡から縄文時代から近世にかけての土器や石器、木製品などの多彩な遺物が出土	10月～11月
	高原遺跡	大田市波根町	縄文時代～近世	平成24年度の発掘調査では、古墳時代を中心とする多量の遺物が出土	5月～8月
	城ヶ谷遺跡	大田市久手町	古代～近代	旧波根湖南に位置する近代の瓦窯跡で、下層は奈良時代の散布地	8月～12月
	神谷遺跡	大田出久手町	古墳時代～古代	旧波根湖南の丘陵地に位置する古墳時代以降の大型の炭窯跡	5月～6月
	涼見E遺跡	大田市波根町	不明	旧波根湖南の丘陵上に位置する墳墓群	7月
一般国道9号静間仁摩道路改築に伴う発掘調査	古屋敷遺跡	大田市仁摩町	縄文時代～弥生時代	潮川左岸の水田部に位置する複合遺跡。集落跡や木棺墓、水田跡、多彩な遺物が出土	5月～10月
国道432号大庭バイパス改築に伴う発掘調査	川原宮Ⅱ遺跡	松江市大庭町	奈良時代～中世	国指定史跡「山代郷正倉跡」の近くに位置する集落遺跡	5月～11月
国道432号菅原広瀬バイパス改築に伴う発掘調査	宮尾Ⅲ遺跡	安来市広瀬町	古墳時代	広瀬町中心部から西へ延びる谷に位置する古墳時代の集落遺跡	11月～12月
県道矢尾今市線改築に伴う発掘調査	高浜Ⅰ遺跡	出雲市里方町	中世	平成22年度の発掘調査では中世の有力者の居館跡や将棋盤などの多彩な遺物が出土	5月～9月
古代文化の郷“出雲”調査事業	大草丘陵古墳群	松江市大草町	古墳時代	意宇平野南側に位置する県内最大級の群集墳	9月～12月
考古資料基礎調査研究(墓制調査)	上竹矢7号墳	松江市竹矢町	古墳時代後期	全長約64m、県内最古の前方後円墳か。	9月～11月
	東淵寺古墳	松江市大庭町	古墳時代後期	全長約62mの前方後円墳。昨年度は埴輪や出雲型子持壺が出土	12月

これらの遺跡の調査成果については、発掘調査現地説明会やリーフレットなどで随時お知らせします。島根の古代の様相を解明する新発見にご期待ください。



平成26年度発掘調査箇所位置図

## 島根県古代文化センターではさまざまな事業をおこなっています

ここでは、平成26年度の古代文化センターの主な事業を紹介します。今年度の古代文化センターは、大きく分けて3つの事業を進めています。

### ①島根の古代文化に関する基礎調査研究

島根県の歴史の特質を明らかにするために、様々な歴史事象を調査・集成し、今後の本格的な調査事業につなげていくための「基礎研究」です。遺跡の発掘を中心とした考古学や『出雲国風土記』の調査研究、祭礼行事の調査や中近世史料の研究を今年度も行っていきます。

### ②島根の古代文化に関するテーマ研究

あるテーマを設定して数年にわたって調査研究を行い、後に研究の成果を古代出雲歴史博物館の企画展示という形で反映させます。今年度から2本の新規テーマ研究事業が始まります。1つは古墳時代から律令国家へと移り変わる時期の山陰地方の首長層の動向と、王権との関わりを研究する「国家形成期の首長権と地域社会構造」、もう1つは平安時代末から戦国時代に石見地方で有力な領主となった御神本氏の動向と、日本海を介した海外交易など東アジアと石見の領主たちとの関わりについて研究する「石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界」です。

### ③島根の歴史文化活用推進事業

島根県の豊かな歴史文化を活用して県の魅力を発信する事業です。首都圏や関西圏に向けては、出雲地方の歴史や文化に関連するシンポジウムや講座を開催し、島根県の歴史文化の魅力を全国に発信します。

県内においては、石見地方や隠岐地方で地元の歴史文化を解説する巡回講座をおこない、出雲地方では昨年引き続き『出雲国風土記』の連続講座や、新発見の木簡を題材にしたシンポジウムを開催します。

また、平成25年度創設された古代歴史文化賞を今年度も実施します。本賞は、古代歴史文化の学問的基礎が踏まえられつつも、一般読者にとって読みやすく面白い書籍のうち最も優れたものを表彰するものです。昨年度は受賞作品が各地の書店で飛ぶように売れ、古代文化を題材とした書籍に多くの皆さんが触れる機会となったようです。今年度は、11月上旬に大賞1作品及び準大賞1作品を決定し、表彰をおこないます。

このように、古代文化センターでは、研究機関としての存在意義を、本来の歴史や文化の研究を通して発揮するとともに、県内外の方々に島根の情報を発信する拠点として様々な事業を展開していきます。事業の様子やイベントの募集などもここでも周知していきます。ご期待ください。



古代歴史文化賞パネルディスカッション



古代文化賞受賞者・各県知事・知事代理・選定委員長

## 古代文化センター 平成26年度上半期 島根県内開催シンポジウム・講座一覧

### 【出雲地方】

出雲国風土記連続講座	7月27日(日)	「風土記と恋ものがたり—古代びとの婚姻—」	坂江渉氏 (神戸大学地域連携推進室研究員)	松江市 松江テルサ  ※受付は終了しました。
	8月23日(土)	「土地の名を語る風土記—出雲にあふれる話す神、坐す神—」	吉松大志 (島根県古代文化センター研究員)	
	9月20日(土)	「読み継がれる風土記—風土記はいかに伝えられたか—」	兼岡理恵氏 (千葉大学准教授)	
古代文化シンポジウム	9月7日(日)	「新発見の木簡が語る古代山陰社会の実像(仮)」	平川南氏(山梨県立博物館館長)・関和彦氏(元共立女子第二中学校・高等学校校長)・山本崇氏(奈良文化財研究所研究員)・市大樹氏(大阪大学准教授)	出雲市 大社文化プレイスうらら館

### 【石見地方】

石見国巡回講座	8月2日(土)	「古事記編纂1300年の謎と本居宣長」	斎藤英喜氏 (佛光大学教授)	浜田市 浜田市立中央図書館
	9月13日(土)	「熊谷家文書が語る石見銀山と浜田藩の歴史」(仮)	岩城卓二氏 (京都大学人文科学研究所准教授)	

### 【隠岐地方】

隠岐国巡回講座	7月12日(土)	「知られざる知夫の歴史を歩く・知る」	内田律雄 (島根県埋蔵文化財調査センター職員)	知夫村 知夫島内
	8月30日(土)	タイトル未定	小林准士氏 (島根大学教授)	海士町 隠岐神社
	9月13日(土)	隠岐国シンポジウム 隠岐の島会場	未定	隠岐の島町 隠岐島文化会館

夏のイベントのご紹介

◆国宝荒神谷銅剣発見30周年イベント

日時：平成26年7月12日(土)・13日(日) 10:00~14:30

○アテンダント紙芝居「青銅器大発見物語 荒神谷のキセキ」

日時：7月12日 11:00~/13:00~ (2回各20分) 場所：エントラス 無料

○「青銅器をさわってみよう！」復元青銅器(銅剣・銅鐸・銅矛)にふれるコーナーを特設します。

日時：7月12日・13日 10:00~14:30 場所：中央ロビー 観覧券、パスポートが必要です。

○「学芸員ギャラリートーク」青銅器コーナーでの解説を聞いてみよう。

日時：7月12日・13日 10:00~/14:30 場所：テーマ展示室 観覧券、パスポートが必要です。

れきはく夏の体験楽「れきはく夏まつり」

夏の体験イベントを開催

日時：平成26年7月27日(日) 10:00~15:00

場所：古代出雲歴史博物館 体験工房周辺

○夏の体験楽

勾玉づくり体験  ハンカチ藍染体験  夏休みいろいろ工作体験

○出張博物館 石見銀山世界遺産センター

○パスポートWポイント

○雲太くん・出雲ちゃんも登場

詳細はHPか、お電話で問合せください。



お知らせ

アテンダント通信

「トライアングル石見銀山世界遺産登録記念イベントに参加」

今年の7月2日で石見銀山は世界遺産登録7周年となり、7月5・6日と記念イベントが開催されます。

7月5日にはれきはくトライアングルも参加してミニコンサートを開催します。

雲太くん・出雲ちゃんも登場します。

皆さんの参加をお待ちしています。



ミュージアムカフェ・ショップ通信

● Maru café です。

特集展「板締の世界」の開催期間中は出雲藍板締の絵柄から飛び出した「うさぎ」をデザインしたれきはくカップチーノをご用意しています。企画展「倭の五王と出雲の豪族」開催期間中にもれきはくカップチーノの限定デザインと特別メニューを提供する予定です。

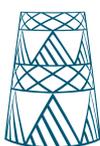


● ミュージアムショップです。

特集展「板締の世界」関連グッズは、中国藍夾纈の技法で染めた日本では販売していない商品をご用意しております。



発行/平成26年6月



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん